



日・セネガル共同声明（主要点）



外務省アフリカ第一課

1. 総論

- 自由、民主主義、法の支配及びグッドガバナンスといった普遍的価値に基づく友好・協力関係の着実な進展を歓迎。
- サル大統領は、TICADを通じたアフリカ開発への日本の傑出した貢献を評価。2019年のTICAD 7に向けた協力を再確認。

2. 二国間関係の強化

- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）達成に向けた国際的取組に貢献すべく、保健分野での協力強化を確認。
- 以下の協力を実施・継続。
 - （1）母子保健実習センター建設、（2）ダカール州配電網改修・強化
 - （3）食糧援助、（4）ダカール海水淡水化施設の建設、
 - （5）「アフリカ農業開発促進プラットフォーム」の下でのシニアアドバイザー派遣
 - （6）職業訓練センター強化やABEイニシアティブを通じた産業人材育成、
 - （7）「アフリカのきれいな街プラットフォーム」の下での廃棄物管理の協力
- 開放性等の国際スタンダードに則った質の高いインフラ整備の重要性を確認。サル大統領は、2018年1月の日セネガル官民インフラ会議の成功へ向けた協力を約束。
- 二国間投資協定交渉の早期妥結へ向け、交渉加速化を確認。

3. 国際場裡での協力

【積極的平和主義】

- サル大統領は日本の安全保障政策（「積極的平和主義」，「平和安全法制」）を賞賛し，この分野での日本の取組を評価。

【国連安保理改革】

- 喫緊の安保理改革に向けた意思を再確認。テキスト・ベース交渉の開始に向けた進展の必要性を強調。関係グループ間の対話継続の重要性を確認。
- セネガルは安保理改革に向けて，日本と対話を続けていく意向を再確認。

【北朝鮮】

- 北朝鮮の核・弾道ミサイル計画の継続を最も強い表現で非難。北朝鮮に対し，同計画の放棄，挑発行動の停止，安保理決議等の全面的履行を強く求める。
- 国際社会に対し，圧力最大化のため，安保理決議の完全履行及び北朝鮮との関係の抜本的な見直しを訴え。
- 北朝鮮に対し，遅滞なく拉致問題を解決するよう要求。

【海洋安全保障】

- UNCLOSを含む法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序の維持の重要性を認識。
⇒ 航行及び上空飛行の自由，阻害されない通商，自制，外交的及び法的手段を通じた紛争の平和的解決の重要性を強調。
⇒ シーレーンの要となる国際的な港湾の開放的で透明かつ非排他的な運営を確保。

【その他協力】

- 国際捕鯨委員会（IWC）において協力していく考えを表明。
- サル大統領は，2025年国際博覧会選挙における大阪への支持を確認。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた協力で一致。
- 2018年サッカー・ワールドカップ出場を互いに讃え，文化・スポーツ交流の促進を確認。